

実装研究の方法論を活用した現場の Quality Improvement とは
 —現場をより良くする精神看護領域における Quality Improvement プロジェクトの実際—

○榎戸 文子^{1,2)}、小林 みゆき³⁾、遠藤 恵美^{4,6)}、瀬戸屋 希⁵⁾

- 1) 国立研究開発法人国立成育医療研究センター、2) 医療法人社団草思会錦糸町クボタクリニック、
3) 国際医療福祉大学成田看護学部、4) 横浜市立大学附属市民総合医療センター病院、
5) 聖路加国際大学大学院看護学研究科、6) 聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程DNPコース

Evidence-practice-Gapとは、科学的な根拠に基づく治療やケアが実際の現場で十分に実践されていないことを意味します。保健・医療分野においてエビデンスのある治療やケアを取り入れることが難しい要因として、資源や時間の不足、情報へのアクセスの困難さ、現在の実践モデル変更の困難さなどが明らかになっており (Sadeghi-Bazargani et al., 2014)、これらの障壁を踏まえ、Evidence-practice-Gapを解決するための戦略を検討することが求められています。

実装科学は、理想的な条件下で示された効能と現実的な条件下で示された効果が検証されたエビデンスに基づく介入 (Evidence-based intervention) を、日常の保健医療福祉活動に組み込み、定着させる実装戦略を開発し検証する学問領域 (島津, 2022) です。実装研究の方法論を活用してQuality Improvement (以下QI) プロジェクトを行うことにより、現場のEvidence-practice-Gapを効果的に解決に導くことが期待できます。QIプロジェクトでは、さまざまなステークホルダーへのインタビューや自施設におけるデータ分析を通して、実装のための阻害促進要因を特定し、エビデンスを現場に根付かせるための実装戦略を検討していきます。

本ワークショップでは、企画者らが聖路加国際大学大学院看護学研究科博士後期課程DNPコースで取り組んだ統合失調症患者の通院再開を支援するプロトコル、精神科救急入院料病棟における退院支援のためのトランジショナルケアプロトコルの実装を評価したQIプロジェクトについてご紹介します。そして、参加者の皆さんと「現場をより良くするプロジェクト」について考えていきたいと思えます。Evidence-practice-Gapや実装研究、QIに関心をお持ち

ちの皆さまのご参加をお待ちしております。

【ワークショップの構成】

- ・実装研究の概要およびエビデンスの実装における阻害促進要因を特定する際のガイドとなる Consolidated Framework for Implementation Research (CFIR) の説明
- ・精神看護領域における実装研究の方法論を活用したQIプロジェクトの紹介：統合失調症患者の通院再開支援/精神科救急入院料病棟における退院移行期支援
- ・プロジェクトの実装を見守る指導教員の立場から「現場をより良くするプロジェクト」についてのグループディスカッションと全体共有

【倫理的配慮】

本ワークショップで紹介するプロジェクトは聖路加国際大学研究倫理審査委員会の承認を得て実施しました (承認番号：20-A087および21-A032)。

【COIの開示】

本ワークショップに際し企画者は全員開示すべきCOIはありません。

【引用文献】

- Sadeghi-Bazargani H, Tabrizi JS, Azami-Aghdash S (2014): Barriers to evidence-based medicine: a systematic review. *Journal of Evaluation Clinical Practice*. 20(6):793-802.
- 島津太一 (2022): 地域包括ケア時代の臨床研究；普及と実装研究の観点から. *薬学雑誌*, 142 (3): 207-210.